



Newsletter

No.34 (2016.12.19 発行)



JAICOWS 総会・シンポジウムのお知らせ

昨年度の総会(2016年1月19日)は九州や京都からも来ていただき、活発な議論が繰り広げられました。今年度の総会も皆さまの積極的ご参加をどうぞよろしく願いいたします。

日 時 : 2017年1月21日 (土) 11:30~12:30 役員会
13:00~13:30 総会
14:00~17:00 シンポジウム

シンポジウム

「イスラーム女性と国際スポーツ ～ヴェールをめぐる葛藤と共存性」

荒井啓子(学習院女子大学教授)

「若手研究者養成における課題 :

ジェンダー差別と「しかたない」論理の再生産」

福永真由美(東京大学准教授)

会 場 : 青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル 10階 第18会議室

- JAICOWS 会員の方、出欠の有無・委任状を同封のハガキで1月15日までにご返送ください。
- JAICOWS 非会員の方 JAICOWS シンポジウムや研究会にご出席希望の方はどうぞご出席ください。また勝手ながら、入会申込書を同封いたしましたので、入会ご希望の方はご利用ください。

第1回役員会報告

日 時 : 2016年4月19日 (火) 18:00~19:00

会 場 : 青山学院大学 青山キャンパス 15号館5階13会議室

出 席 : 岩井、国枝、小浜、袖井、田原(事務局)、直井、羽場(会長)、廣瀬(50音順)

議 題 :

1. 報告 :

ニュースレター第33号が発行された(2016年1月31日)。

2. 規則の確認について

総会で承認された改訂箇所を記入した規則を配布し、確認した（資料後掲）。

3. 内規について

講師謝金に関する内規を定めた。交通費を支給する場合の上限を5万円とした（資料）。

4. 2015年度決算について

2015年度決算報告が行われ、承認された（資料）。これを受けて馬場房子会員に監査を依頼することになった。

5. ニュースレターの発送について

次号の発行は、8月を予定。送付先の範囲（JAIOCWS会員に加えて、日本学術会議における女性の会員・連携会員を含めるかどうか）については、アンケート調査の実施の有無と関連して次回役員会において継続審議とする。

6. アンケート調査の実施について

羽場会長より前回とは異なる方式でのアンケート調査を実施してはどうかとの提案がなされた。前回は記述式が主であったが、今回は選択式とし、量的な把握を目的とする。インターネットによる回答方法を用いれば費用もかからず、集計も楽に行える。参考情報として、京都大学が研究者を対象に実施した多様性に関する調査があるが、ジェンダー視点は含まれていなかった。

これに対し、アンケート調査を実施するのであれば、費用をかけてしっかり行ってはどうか、男性も調査対象にしてはどうか、前回のアンケートの回答を受けてJAICOWSの取り組みを示す必要があるのではないか、などの意見が述べられた。さらに情報を収集、整理して、次回の役員会で継続審議することになった。

7. ジェンダー関連の会合についての報告

- ①女性参政権 70 年記念シンポジウム (1)「女性議員の切り拓いた道」(2)「女性を議会へ 本気で増やす！」が 2016 年 4 月 10 日に上智大学において開催され、約 400 人が参加した。(羽場)
<http://www.christiantoday.co.jp/articles/20439/20160411/sophia-university-womens-suffrage.htm>
<http://www.christiantoday.co.jp/articles/20472/20160412/sophia-university-womens-suffrage-2.htm>

- ②女性参政70周年記念シンポジウム「女性は政治を変えられるか」が4月18日に憲政記念館においてが開催された(袖井)。
<http://ichikawa-fusae.or.jp/event/index.html>

- ③ISAの国際会議：Women's Caucusパネル募集について(羽場)
羽場会長が副会長を務める世界国際関係学会 (ISA in USA) において女性によるパネルを募集している。4名以上でパネルを組織することができるので、希望があれば 5月中旬までに連絡してほしい。

8. その他

次回の役員会において、総会の日程および同日に開催する公開講演会について検討を始める。

以上

2015 年度会計決算報告

1. 収入の部 (単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (②-①)	備考
会費	575,000	505,000	△70,000	101 人分 (87.8%)
利子	100	86	△14	
寄附	0	0	0	
小計	575,100	505,086	△70,014	
前年度繰越金	792,394	792,394	0	
収入合計	1,367,494	1,297,480	△70,014	

2. 支出の部 (単位:円)

勘定科目	①予算額	②決算額	差異 (①-②)	備考
通信費	35,000	60,555	△25,555	請求書発送費, はがき代等
Newsletter 印刷費	175,000	112,320	354	ニュースレターNo.32 ,33
Newsletter 発送費		62,326		
行事費	50,000	10,000	40,000	講師謝金
会議費	25,000	23,488	1,512	弁当代, コピー代等
事務費	50,000	30,000	20,000	ホームページ作業費
学会業務委託費	432,000	432,000	0	
備品	5,000	3,888	1,112	振込手数料等
小計	772,000	734,577	37,423	
次年度繰越金	595,494	562,903		
支出合計	1,367,494	1,297,480		

※会員数 119 名 (2016 年 3 月 31 日現在)

JAICOWS 会則

1 月 19 日の総会で会則改正が成立しており、その詳細についてはニュース 33 号でご報告しておりますが、改めて全文を掲載しておきます。

「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」(JAICOWS) 会則

2006 年 8 月

2016 年 1 月 19 日改訂

名称

第 1 条 本会は「女性科学研究者の環境改善に関する懇談会」(Japanese Association for the Improvement of Conditions of Women Scientists, 略称 JAICOWS) と称する。

目的

第 2 条 本会は日本学術会議第 15 期の「女性科学研究者の環境改善の緊急性についての提言(声明)」の趣旨を受けて、日本学術会議と連絡をとりつつ女性科学研究者の環境改善のより具体的な推進のため、女性科学研究者自らがその具体的方策等について検討することを目的とする。

事業

- 第3条 本会は、前条の目的を達成するため、つぎの事業を行う。
- (1) 女性科学研究者の環境に関する実態調査
 - (2) 女性科学研究者の環境改善に関する討議と提言・要望
 - (3) 女性科学研究者自身が行うべき実践課題の検討
 - (4) 日本学術会議会員との連携
 - (5) その他本会の目的を達成するために必要な事業

組織

- 第4条 本会は日本学術会議の会員および連携会員、旧研究連絡委員会委員等（それらの経験者を含む）の女性を会員として組織する。

役員

- 第5条
- 1 本会に役員として、会長、事務局長、役員若干名、監事を置く。
 - 2 本会に顧問を置くことができる。
 - 3 役員は総会において選出する。

役員職務

- 第6条 会長は会員を代表して会務を統括し、総会および役員会を招集する。
- 第7条 事務局長は会長を補佐し、必要な場合にはその職務を代行する。
- 第8条 役員は日常の会務を執行する。
- 第9条
- 1 監事は会務執行および会計状況の監査を行う。
 - 2 監事は他の役員を兼ねることができない。

役員任期

- 第10条 役員任期は3年とする。

総会

- 第11条
- 1 総会は毎年1回定例総会を開催し、必要に応じて臨時総会を開催する。
 - 2 総会は会長がこれを主催する。
- 第12条 総会の議決は出席会員の過半数をもって決する。

運営

- 第13条
- 1 本会の運営経費は会員の会費、寄付金その他の収入をもってこれに充てる。
 - 2 会費については別に定め、総会の承認を得るものとする。

その他

- 第14条 本会則の改訂は総会の議決を経る。

附則 本会則は決定と同時に施行する。

(付記) 年会費は5,000円とする。

第2回役員会報告

日 時：2016年10月17日（月）18:00～20:00

会 場：青山学院大学 青山キャンパス 総研ビル9階、第15会議室

出 席：国枝、袖井、田原（事務局）、直井、羽場（会長）、原（顧問）

議 題：

1) ニュースレターについて

- ・ニュースレターの進捗状況について報告がなされた（直井）。
- ・羽場会長による二点の原稿が追加されることになった（中央ユーラシアのジェンダーに関する国際会議報告、女性研究者の貧困に関する話題）
- ・JAICOWSの活動内容を広報する意味も含め、年1回を目処に総会前の号を女性の日本学術会議会員および連携会員全員に送付することに決定した。その際、案内文を添える。また、バックナンバーの在校状況を確認し、同封することも検討する。

2) 会費の滞納者について

- ・2016年8月31日時点での会費滞納者について情報を共有した。知り合いの方には役員から連絡をとることになった。

3) 総会の日程とシンポジウムについて

- ・2017年1月21日または28日を候補とする。
- ・総会後に開催するシンポジウムには、イスラムの女性に関するテーマで伊藤り会員にご登壇いただく方向で、日程調整を進める。日程の都合がつけば、併せて荒井啓子氏（学習院女子大学教授）にイスラムの女性とスポーツについてお話ししていただく。
- ・時間設定は、11:30～12:30役員会、13:00～13:30総会、14:00～17:00シンポジウムとする。

4) 研究会について

- ・2017年7月頃に研究会を行い、女性研究者（特に非常勤講師）の貧困問題について話題提供をしていただき、合わせて語学教育改革に関わる雇用問題について女性の英語教師にもお話しをしていただく予定である。日本学術会議では、このテーマで2017年秋にシンポジウムを開催予定。

5) その他

- ・次回の役員会は、総会当日とする。必要があれば、それ以前に開催する。

2015年のJAICOWS共催の国際会議の報告



「中央アジア、中東欧・中央ユーラシアのジェンダーと、日本との交流」

青山学院大学教授

羽場久美子

2015年8月4日(火)、青山学院大学総研ビル11階の大会議室において、JAICOWSと青山学院大学、(NPO)中央アジア・コーカサス研究所、グローバル国際関係研究所の共催により、「中央アジア・中東欧・中央ユーラシアのジェンダーと日本との交流」という国際会議が開かれた。総合司会は羽場久美子と田中哲二氏が務め、JAICOWS代表として岩井宜子氏が、学術会議の外部団体としてのJAICOWSの創設発展の経緯について大変格調高い挨拶をして下さり、日本の学術における女性の環境改善の意義を強調していただいた。

通常あまり日本との学術交流の多くない、中央アジア・中東欧・ユーラシアのジェンダー研究者たちとの交流は、非常に意義深いものであった。

第I部「ロシア・中東欧のジェンダーと日本との交流」

ハンガリーから、ヒダシ氏、セケレシュ氏の2名とチェコのスヴァリツコヴァ氏がとりわけEU加盟後の中東欧のジェンダーについて、インドのサクセナ氏がインドのジェンダーの特徴について講演された。

また世界銀行の亀澤卓利氏が「世銀におけるジェンダーシステムの発展」について、アメリカ大使館からエヴァンス・ウォーカー氏が「アメリカのジェンダー政策」について報告をいただいた。また日本からの返礼のコメントとして、猪口邦子氏(参議院議員、元少子化担当大臣)が「日本における男女共同参画とジェンダー対策」(臨時国会のためメモ)、川端良子氏(東京農工大学)が「シルク産業による女性の自立化支援」と題し講演された。ジェンダー政策の遂行のためにはまず、価値の多様性、機会均等などが保証され、経済的に自立しなければならないなど、重要な指摘や活発な討論・質疑が行われた。

第II部「中央アジア・中央ユーラシア、中国の現状と日本とのかかわり」

総合司会を田中哲二氏(中央アジア・コーカサス研究所長、ICCEES 幕張会議・顧問会議代表幹事が務め、中央アジア、中央ユーラシア、中国からの研究者の報告により、各国の「安全保障」、「経済開発」、「民主化」に関する各国の現状と課題、日本との関係の発展について議論がなされた。グルジアからはメジマリアシヴィリ氏、タジキスタンからはカランドロフ氏、キルギスからはノゴイバエヴァ氏、中国からはティヤンピン氏、ジュンチ氏らから各々報告が行われた。興味深かったのは旧社会主義国の国々においては、労働は男性と同等に行うことが義務づけられていたにもかかわらず、女性は必ずしも指導的な地位についていなかった。しかし社会主義から資本主義への体制転換以降は、大臣や所長など積極的に様々な指導的ポストの地位が保障されるようになったとのことであり、外務大臣のポストについての研究者がその経験と意義を語ってくれた。最後に、日本側有識者による報告へのコメントとプレゼンテーションがあった。清水学氏(前一橋大学教授、元アジア経済研究所)が「中央アジアの経済開発と課題」、河東哲夫氏(元ウズベキスタン・タジキスタン特命全権大使)が「中央ユーラシアの安全保障問題」、出川展恒氏(NHK解説委員)、が「混迷の度を深める中東情勢とその余波」、岡田見枝氏(東京大学特任准教授)が「中央アジアの民主化と人間の安全保障」など、中東中央アジア研究の第一人者らが報告とコメントを行った。

最後のレセプションでは、海外からの参加者が浴衣を着たり、祖国の歌を歌ったり、各国の文化や社会について語るなど大いに多様性の中の文化交流を行うことができた。

JAICOWSの会員の皆さまのご協力に心より感謝いたします。

第1回 研究会報告 「においは薬になりますか」

日時：2016年4月19日(火) 18:00~19:00

会場：青山学院大学 青山キャンパス 15号館5階13会議室

准教授 京都大学大学院薬学研究科

伊藤美千穂

有名な脳科学分野の先生が書かれたエッセイに「においは苦手」というフレーズがあった。においを感じる嗅覚は五感の中でも特別で、反応する脳の領域が視覚や聴覚、触覚と異なっており、理屈になりにく

い、だから科学者としては苦手だとおっしゃるのである。同感の科学者は多いと思われる。理屈になりにくいから科学実験の対象にされることが少なかったのか、対象として取り組んでも結果として論文という形にできなかったのか、いずれの説明が適切なのかはわからないが、いわゆる薬学の分野では、実験動物を使ったにおいの研究例はごく少数である。他方、ヒトを使ったにおいの効果をみる実験は各種行われており、特許なども相当数ある。

においの効果という点、日本ではアロマセラピーが有名だが、ヒトを対象にしたアロマセラピーの手法は、においに強く結びついた記憶による影響を排除しきれないため、科学的エビデンスとしては認められにくい。我々にはにおいの効果を論じる時にも通常の化学薬品の効果を調べる時と同じ手順が必要だと考え、マウスを使ってにおいの効果をみる実験を始めた。行動薬理学の専門家に助言を仰ぎながら、苦勞しつつも安定した再現性のある実験系を構築し、それを使って精油やその成分などについて、鎮静活性を中心とするにおいの効果を観測している。

その結果わかったことは、香道で使われる香木の樹脂やアロマセラピーで多用されるラベンダー精油などは、これらをごく薄いにおいとしてマウスのいる空間に加えるとマウスの行動量が減り、短時間のうちに眠ってしまうほど強い鎮静活性があるということだった。日本の伝統的な薫香生薬類、例えば匂い袋に入っている生薬類にもマウスをおとなしくさせる活性があり、それら生薬から活性がある化合物だけを精製したりもした。また、活性がある化合物と無い化合物の構造を比較して、どんな化学構造が鎮静活性に大きく寄与しているかの検討なども行った。

このマウスを使った実験系は、少し工夫を加えることで、抗不安効果や抗うつ効果についても検討することができる。沈静活性に加えて抗不安効果や抗うつ効果があれば、それらを総合的に判断して、いわゆる「リラックス効果」と表現できるのかもしれない。そこで、鎮静活性が特に強かったいくつかの化合物について、抗うつ効果なども調べているところである。

マウスに鎮静や抗不安などの活性が強く現れるにおいの濃度は、多くの場合非常に希薄で、においが濃すぎるとマウスは興奮してしまう。においの正体は空気中に分散した化合物分子なのであるが、静脈内投与(注射や点滴)や経口投与(錠剤や粉薬の内服)に比べて、においとして吸入投与する場合はマウスの体内に取り込まれる化合物分子の数は圧倒的に少ないといえる。香木の樹脂成分などはその少ない分子で、錠剤や注射剤の睡眠薬とほぼ同じ効果が得られるということもわかった。そこで、これらのにおいは薬として使えないだろうか。そう考えながら、さらににおいの効果の作用機序などについて現在も少しずつ、研究をすすめている。

日本学術会議第 1 部総合ジェンダー分科会からのお知らせ

第 23 期に新たに発足した第 1 部総合ジェンダー分科会では、学協会における男女共同参画推進の取り組みの促進を目指し、2016 年秋に、学協会のジェンダー問題の取り組みに関して、会員の間でアンケートを行いました。

人文社会学系の学協会の取り組みについては、2017 年 1 月 21 日(土)に「人文社会学系学協会における男女共同参画の促進に向けて」(仮)をテーマにシンポジウムを開催する予定とのことです。是非ご参加ください。

今後の企画について

この間、日本学術会議では会員 210 名のうち女性会員が 50 名、連携会員 1800 名のうち女性会員が 420 名、いずれも全体の 23-24%という新しい時代に入っています。来年 10 月には会員・連携会員の半数の改

選が行われ、会員連携会員ともに 30%が目指されようとしています。そうした中、JAICOWS としてもできるだけ学術会議で急速に増加した女性会員、女性連携会員の方々と積極的に交流の場を設け、要望や悩みを聴き、要望に即した活動を行っていきたくと思っています。ぜひ多くの方に JAICOWS を知っていただき、入っていただき、ともに学術会議、学協会、会員や連携会員の環境を改善すべく活動して行きたいと思っています。これからも皆様のご要望を是非実現する努力を継続していきたく、どうぞよろしくお願いいたします。

また学術会議のジェンダー分科会では「ジェンダーと貧困」を扱いたいという方向が提示されており、JAICOWS としては、一つには 1 万人のポスドクに職がないという状況をふまえた院生・ポスト院生の研究環境の改善、今一つには女性が極めて多い非常勤講師、とりわけ近い将来センター入試の英語には TOEFL が導入されるという中での、語学担当の非常勤講師の職の不安定化と大量解雇の危険性という問題と環境改善にも、意識的に取り組んでいきたいと思っています。

できれば非常勤やポスドクの方のアンケートを来年度に実施し、また皆さまの要望を集めたいと思っています。

皆様から、改善してほしい、取り上げてほしい要望があれば、是非出していただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。ご協力ありがとうございます。

なお総会は、来年の 2017 年 1 月 21 日（土）に行う予定です。今年は九州や京都からも来ていただき、活発な議論が繰り広げられました。来年も皆さまの積極的なご参加をどうぞよろしくお願いいたします。

(羽場久美子)



新入会員の紹介

お名前	所属	専門分野
工藤 眞由美	大阪大学 文学研究科	

新規入会者 1名 2016年9月2日現在 会員数 114名

(この号は、桜美林大学大学院の直井が係りでした。)

連絡先：女性科学研究者の環境改善に関する懇談会（JAICOWS）事務局

〒206-8515

東京都多摩市永山 7-3-1 国士舘大学体育学部 田原淳子研究室

Tel・Fax：042-339-7294（研究室直通）

E-mail：tahara@kokushikan.ac.jp <http://jaicows.fc2web.com/>

学会事務センター：

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル

株式会社ワールドプランニング

Tel：03-5206-7431 Fax：03-5206-7757

E-mail：world@med.email.ne.jp

郵便振替口座番号 00100-8-542793

ゆうちょ銀行 ○一九（ゼロイチキュウ）店 当座 0542793

口座名義 女性科学研究者の環境改善に関する懇談会